



平成29年度の地域づくり人養成講座を担当しました研究員の秋山です。地域づくり人養成講座の報告については、受講生の声を聞いてもらいたいという思いから、講座の卒業課題として受講生から提出いただいた自主研究論文を掲載することとしました。砥部町役場の岩佐千恵さんの受講目的と成果、今後についてなどから地域づくり人養成講座の様子や学んだことを感じていただければと思います。

1 受講の目的と成果

講座を受講するにあたって、行政の立場からの地域との関わり方について次の二つを学ぶ目的がありました。一つは、近隣地域や組織間の連携や協力の方法について。もう一つは、身の丈に合った地域独自の活動の見つけ方から実践に至るまでの取り組みについてです。

前者において、連携や協力を考える前段には地域についての現状を知る必要があると感じました。しかしながら、出身である砥部町についてまだまだ知らないことが多く、地域のニーズが分かかっていないと仕事をするなかで感じる場面があ

りました。また行政にできるサポートの方法という点では、団体への事業補助や個人として団体と共同することが考えられます。ニーズを把握したうえで助成金



岩松商店街での取り組みを紹介する兵頭肇さん

交付や人材の派遣など対象となるチャンスが来た時に気づき掴めるようにしたいです。当初目標としていた近隣地域や組織間の連携と協力の方法については、今後の目標とします。

後者においては、無理をせず、身の丈に合った活動することが重要であると学びました。宇和島での講座の際、岩松商店街の取組の中で代表の兵頭肇さんが良い意味でいかに楽をするかを考えているとおっしゃっていたことが深く印象に残っています。また現在担当している砥部アーバンデザインスクールというまちづくりの学習と企画、実践の体験講座においても企画を考える際にあれもこれも

と色々なことに手が伸びていきましたが、長い目でみると、イベント疲れとなり継続が難しくなる可能性があると感じました。まずは試しに小さい取組をやってみる、その反省を次回に活かしながら少しずつ拡大していくべきだと考えます。

2 印象に残っていること

企画を考えるうえで今ある資源の活用方法を学んだのは小田での講座でした。まち歩きを通じて考えた観光・体験プランの発表では、特産の松の縁起事を結び付けたストーリー性のあるもの、地名に注目した呼び込みなど、今まで考えたことのない発想に触れることができました。今

ある資源ひとつをとっても考え方によっては様々な活用方法があることが分かりました。地域づくり講座の他



小田のまち歩きで宿泊施設「京の森」を訪れている様子